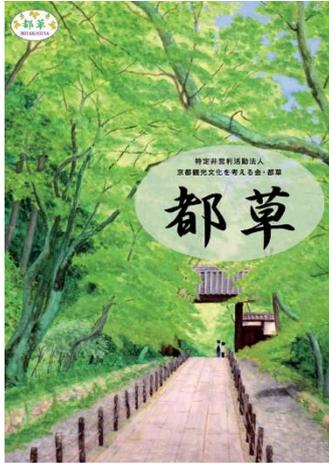




■ 都草パンフットを一新



都草の従来のパンフレットは2014年3月に作成したもので、5年半が経過、この間に理事長が交代、活動内容も大きく変わってきました。新しく始まったもの、終了したものなど内容が現状とそぐわなくなってきたためにこのたびパンフレットを一新しました。

顔となる表紙は、高橋明俊会員が描いた粟生の光明寺です。新緑が映え、都草のイメージにピッタリの作品です。また、活動を具体的に紹介する写真は全て新しくしました。

見開きの中面は、社会貢献事業と会員活動が中心です。美化活動や歴史探訪会、研究発表会など引き続き活躍しているものはもちろん、4年前から始まった旧議場の案内と土曜講座、10周年記念事業の都草 わくわく倶楽部、京のこと語り隊が加わりました。また、2017年7月からは京都御苑歴史散策ツアーに御所コースが加わるなど、ますます広がる活動を幅広くご紹介しています。

裏面は主な受託事業のご紹介です。ガイド業務や各種講座の要望が大幅に増えている反面、観光案内所は1カ所に減ってしまいました。一方で、新たに始まった新聞や月刊誌の記事掲載が好評です。京都新聞で1年半にわたり隔週に掲載した「京都御苑さんぽ」、今年7月から始まった『月刊京都』連載の「京都 ふしぎの玉手箱」など、都草ならではの記事を読者にお届けしています。

都草の多岐にわたる活動を知っていただく一助にいただければ幸いです。(副理事長 須田 信夫)

■ 京都市立京都学・歴彩館府民協働連続講座 都草講演会

「京都に残された資料からみる-京都の即位式・大嘗祭-」

講師の先生をお招きして第5回都草講演会を歴彩館大ホールで開催しました。今年は「令和元年」。立皇嗣の礼が行われる来年4月19日をもって、戦後2度目の一連の皇位継承儀礼が終了することになります。11月14日から15日未明に行われた大嘗祭後まもなくのお忙しい時期ではありましたが、宮廷文化研究家の吉野健一先生に、京都に残された資料をひもとき、京都で行なわれた即位礼と大嘗祭について、その歴史的経緯や意味についてお話いただきました。今回の皇位継承については明治以降初めてのことも多く、よく知られた「譲位」(生前退位)による皇位継承のほか、新年号の事前公表、踐祚・改元日の事前決定、「雨儀(雨天のもとでの儀式)」による即位式の実施、「皇太子」不在による秋篠宮殿下の立皇嗣があります。さらに退位した天皇を「上皇」(従来の太上天皇を略しての上皇とは異なる)、上皇の后を「上皇后」(皇太后としなかった)など、従来と異なる点も興味深いところではあります。



今回の講演会に際して、有職御人形司 伊東久重氏からお借りした貴重な黄櫨染御袍(こうろぜんのごほう)を展示しました。近くで拝見すると、桐・竹・鳳凰・麒麟のおめでたい文様が入っているのがよくわかります。平安時代以降の日本の天皇が重要な儀式の際に着用する束帯装束を会場に展示するという貴重な機会をいただきました。(理事 岸本 幸子)

「上京区 140 周年記念事業」

明治 12 年に誕生した上京区は今年 140 周年を迎え、様々な催しが開催され都草が協力しました。

■ 「上京 de 婚活」



11 月 3 日、上京区に在住、勤務又は将来居住を希望する 23 歳から 45 歳までの男女 25 組を対象にした「上京 de 婚活」を企画、実施しました。企画案は①人間組紐②呈茶でご挨拶③上京の歴史・町並み文化・ご利益さんの解説の 3 パターンが採用され実施の運びとなりました。「人間組紐」は実際に京くみひもの工房を訪ね、組紐の原理を学んで、ペアを組んだ男女が動いて巨大な組紐を作っていきます。これが中々難しく試行錯誤しながら練習して完成させました。参加された皆さんは大変楽しんでおられた様子でした。

「呈茶でご挨拶」では向かい合った男女がお茶を点て合いました。お互い心を込めてお茶を点てることで親近感が生まれた様子です。「上京の歴史・町並み文化・ご利益さん」では、人生の始まりからエンディングまでお守りくださる神様仏様が上京区におられることになるほどとうなずき、笑いありでその場の雰囲気を高めることができました。

それらの効果があつてか、後のホテルへ移動してからの和やかな一対一トークの結果、なんと 14 組ものカップルが成立しました。募集では着物で参加とされていたので会場は艶やかな雰囲気につつまれていました。

今回の催しは大盛況で実りある婚活となりました。ご協力いただいた皆様のお陰と感謝しております。(理事 藤井 久美子)



■ 「上京大茶会」



11 月 2 日、京都御苑で「上京大茶会」が開催され都草が協力しました。当日は朝から晴天に恵まれ、1500 名のお客様が野点のお茶を楽しまれました。

都草の役割は、お茶席の時間を待つ間を利用してのご案内です。宜秋門前の木立の間に設けられた案内スペースで、5 名のガイドが「大正・昭和の御大典を通して宮廷文化を見つめる」のテーマでお話しました。

10 月 22 日に皇居で「即位礼正殿の儀」が行われた直後でもあり、皆様の関心も高い様子でした。

大正天皇、昭和天皇の「即位礼紫宸殿の儀」は京都御所紫宸殿にて行われました。特に昭和天皇のご即位で、京都駅前奉迎門から京都御所までの聖上御馬車の様子、建礼門前にご到着の様子など、当時の写真を使いながら説明、お客様も熱心に聞いていただきました。

大正と昭和の御大典は、天皇が東京におられたにもかかわらず、なぜ京都御所で斎行されたのか？高御座のこと、大嘗祭の時に舞う五節舞姫のお話など盛りだくさんの内容でした。途中お茶席の順番が来て退席されたお客様が話の続きを聞かせて欲しいとわざわざ戻ってこられ、再度お話するようなこともありました。

爽やかな秋空の下、私達ガイドにとりまして大いに楽しい時間を過ごすことができました。最後にお点前で一服をいただき、心深く沁みわたる一日となりました。(理事 須田 清司)

【お詫びと訂正】

前号 (56 号) の裏面 1 行目に「今年度 2 回目の新入会員オリエンテーション」とありますが、「新入会員オリエンテーションが 9 月 18、20、21 日の 3 日間に行われました。」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。